



## サブテーマ 1: プラネタリーヘルスのための保健システム強化

保健政策や保健システムに関する研究や政策対話において、プラネタリーヘルスと保健システムの機能との関係は、依然として軽視されている。サブテーマ「プラネタリーヘルスのための保健システム強化」では、保健システムや保健政策のプラネタリーヘルスの視点からの研究を促進するため、以下の領域における協調的な努力が必要だ。

**気候変動にレジリエントな保健システム強化:** 人間やその他の生物種を含めた生物集団の健康はプラネタリーヘルスと深く結びついている。しかし、伝統的に疾病の治療に焦点を当ててきた保健システムは、制度上柔軟性に欠けることが多く、気候変動、都市化、生物多様性の喪失、パンデミック等—によってもたらされる複雑な課題への適応が求められている。こうした状況を踏まえ、HSR2024 では気候変動に強靭な保健システムを構築するために必要な保健インフラや保健人材の適正化についての研究や、気候変動が保健サービスの提供にいかにして負の影響を与える可能性があるか、気候変動による疾病の変化や人口移動に伴って生じる保健サービス需要の変化に保健システムがどう対応するか等、を探る研究を歓迎する。保健システムの専門家と、市民社会の代表者、先住民族、そして社会科学・気候変動対応に関連したサービス・生態学・工学・未来学などの非保健分野の知を結集し、気候変動に強靭な取り組みやその成果を発表する場を提供する。さらに、地域社会をベースとした戦略や参加型アプローチの役割、気候変動に強靭な保健システム強化への地域や先住民族の知識の貢献等を探求する研究も特に歓迎したい。

**環境的視点から持続可能な保健システムへの強化:** 保健システム自体が、資源浪費・廃棄物排出・エネルギー消費等を通して、自然環境の変化や悪化の一因になっていることを忘れてはならない。持続可能かつ気候変動に強靭な保健システムを構築するための、科学と実践に関する研究を歓迎する。このパートには、強靭でかつ低炭素な保健サービス提供モデルを提案する先進的研究や、気候変動・急速な都市化・生物多様性喪失・新たなパンデミックによる複合的課題に対応できるワンヘルス・アプローチの研究、環境的視点から持続可能な保健システムや気候に関連する商業的な健康決定要子を検討する民間セクターの取り組みの報告などが含まれる。

**気候変動に強靭で持続可能な保健システムのための政策立案とガバナンス:** 気候変動に強靭で持続可能な保健システムのための政策立案とのガバナンスに関する研究は不足している。保健システムの気候変動適応や変革の政治経済学に関するマクロレベルの研究（たとえば、保健システムの気候変動への適応ための低中所得国への効果的な支援に関する研究）や、サブナショナルレベル（県・郡・コミュニティの各レベル）で見られる政策の矛盾や乖離が公衆衛生分野の気候変動適応に及ぼす影響についてのメソ・マイクロレベルの研究が含まれる。保健システムのリーダーは、

現在と将来の地球への損害の予防と緩和に関し、重要な役割を担っている。プラネタリーヘルスの問題の根本的原因に対処し、持続可能な実践を促進し、現在と将来の世代のためにより健康な地球を育む政策と介入策を提唱する保健システム・リーダーの役割についての提案を歓迎する。

## サブテーマ 2: 平時と紛争下における保健システムの公正、包括性・一体感の推進

人種・民族・性別・障がいの有無・社会経済的地位などにかかわらず、誰もが質の高い保健サービスを享受する権利を持っている。サブテーマ「**平時と紛争下における保健システムの公正、包括性・一体感の推進**」は、平時・紛争下にかかわらず、社会的不平等を深化させることなくむしろ調整・是正するために、保健システムの格差の原因を特定し、さらに包摂性や相互信頼強化に向けた行動を取り扱う。具体的には、以下の分野における研究を歓迎する。

**保健システムの現場における経験を中心に据えて:** 世界中で、特に紛争地域では、差別、保健システムの混乱、サービス間の連絡調整の欠如、保健資源不足のために、人々は保健サービスへのアクセスが困難になっている。よって、代替的な政策やサービス提供枠組みの導入により、社会的弱者（先住民、女性、難民、国内避難民、少数民族、LGBTQIA+、障がい者、有色人種、高齢者等）が保健システムに求めるさまざまなニーズ、保護、期待にどのように応えられるかといった現場での研究を歓迎する。保健システム変革には何が必要かを検討するために、実務・実態の相互関係性や、保健サービスへのアクセス、保健サービスの質についての考察や研究知見を統合する研究を奨励する。HSR2024 は、保健政策と保健システムの実践における保健プログラム間の関係性や権限・裁量権についての議論を進めることを目指している。

**公正・包括性・持続可能性を推進する実装研究と実践の取り組み:** 知識のサイロ化が、保健システム強化の在り方を変えるための障壁となっている。すべての保健システム領域において、公正・包括性・一体感を推進する改革やイニシアティブの事例の報告や評価の研究を奨励する。保健サービスの適用範囲と質の改善を促進し、さらにその持続性を高めるために必要なメカニズム（財政、立法、規制、市民社会、地域社会の巻き込み、保健サービスの再設計など）や状況特有な要因に焦点を当てた研究を歓迎する。特に、脆弱であるために紛争の影響を大きく受けた保健システムにおいて、公正・包括性・一体感を促進する適応能力とメカニズムを特定する研究が必要である。既存の様々な保健財政モデルの公平性促進の可能性を認識しつつ、さらなる新しい保健財政アプローチや、保健システムにおける不公平性を解消するための対策を講じながら保健アウトカムの改善をめざす複合的な保健サービス提供モデルに焦点を当てた研究を歓迎する。また、目的意識をもったリーダーシップと常に改善を目指す現場での実践を通して、マネージメントと組織バイアスに対処するイニシアティブに関する研究とプログラム上の学びの共有を奨励する。

**構造変革の実現：**制度、構造、組織、人間関係における人種差別や他の差別は、保健指標に多大な悪影響を及ぼす。保健システムにおける人種その他の差別、他者への軽視と虐待をなくすために必要な構造改革を探求し、紹介する研究が歓迎される。このような制度的・歴史的障壁を取り除くことを目的とした、公衆衛生と保健サービス提供の変革を設計・実施するアプローチに焦点を当てた実証研究を歓迎する。疎外されてきた人々の権利を実現するために、現地固有の知識体系を中心に据える、または統合することで、認識論的不公正を是正しようとする取り組みの実践例や批判的評価を歓迎する。強みを活かす方法論や、人々を中心とした互いに尊重し合える保健システムを構築するための戦略を探求する研究、政策、介入策の共有も歓迎する。

### サブテーマ3: 公正で持続可能な保健システムのための保健ガバナンス、保健政策、制度枠組み

効果的な保健ガバナンス、保健政策、そしてそれを具現化する制度枠組みは、共感と共通理解を生み出し、調整・協力と説明責任を促すのに役立つはずだ。しかし、急速に進化する技術や、政治経済、疫学上の課題に対し、そうした制度をどのように定義・設計し、制定するかについては、さまざまな見解がある。サブテーマ「公正で持続可能な保健システムのための保健ガバナンス、保健政策、制度枠組み」は、以下の分野に焦点を当てた分析的・実証的研究に重きを置く。

**複雑な保健システムのためのガバナンスと制度枠組み：**良好な保健ガバナンスは、公正性と持続性を促進するという目標の基本となるが、複雑な保健システムの中で、それを具体化する政策や制度枠組みが現存しているとは言い難いのが現状である。保健セクターにおける横断的（例えば公的-民間、保健-他分野）な協働を強化する政策や制度の複雑さを明らかにし、それに対する戦略を探求する研究を歓迎する。また、質の高い保健システムの実現への道筋において、民間セクターがその達成、歪曲、革新に果たす役割を探求する研究も歓迎する。特に関心が高いのは、公的・民間セクターが混在する複合的な保健システムの中で、政府が及ぼしている、あるいは及ぼすことができる影響力や関与の度合いを探る研究や、民間セクターの大小さまざまなアクターの多様な利害を理解し、それらが公正で持続可能な保健システムの目標に合致しているか否か、またどのように合致しているかを理解する研究である。関連して、複合的な保健システム内の制度的エコシステムをマッピングし、ギャップを特定し、システムや組織レベルでの改革を提案する研究も奨励する。本サブテーマでは、恒常的な危機ともいえる保健人材の課題の構造的原因について理解を深める最先端の研究や事例研究も奨励する。例えば、保健人材の国内・国際移動を促進・抑制する政策の設定とその影響、地政学・平和構築・グローバルヘルス外交における保健人材の移動の意味合い、産業・政治・社会状況の変動の中での保健人材改革の政治経済学、遠隔地や小島嶼国、群島国家のように離散した環境に住む人々のための保健人材の管理の革新的アプローチなどが挙げられる。

**公衆衛生を強化し、商業的・文化的決定要子に対処するためのガバナンス：**「ポスト」パンデミック時代における、公正で持続可能な公衆衛生機能と人々の健康を実現するためのガバナンスを強化する方法について、理解を深める研究を歓迎する。優先されるテーマとしては、パンデミック時と平時の双方において熟練した公衆衛生人材を確保するための国の政策設定と制度的枠組みの充足性、リアルタイムの意思決定とより効果的な資源活用を可能にする統合された保健情報システムを導入する政策的枠組み、サーベイランスへの健康の商業的決定要子の取り込みを含む最先端の「攻め」と「守り」の政策と戦略、地域社会の対応力を高め信頼を再構築するガバナンスへのアプローチなどが挙げられる。また、保健ガバナンスと制度的枠組みは、グローバルレベルだけでなく、国家及び地方、地域レベルでも構成され機能しているため、異なる環境において権力力学と政治経済が保健政策とガバナンス面の成果に対し及ぼしている影響について理解を深める研究を強く奨励する。

**AI やビッグデータを含むデジタル変革の管理：**グローバルレベルの保健システムにおけるテクノロジーの役割と、加速するデジタルトランスフォーメーションの速度は、過小評価できない。WHO のデジタルヘルス世界戦略 2020-2025 では、デジタル技術を「持続可能な保健システムとユニバーサル・ヘルス・カバレッジの不可欠な要素であると同時に実現に向けての牽引力」と位置付けられている。しかし、変革的なテクノロジーを規定する管理責任や制度的枠組みの妥当性については、個人の健康情報に関するプライバシーや秘匿性に関わる懸念、AI や機械学習の使用における倫理的配慮など、多くの懸念が残されている。私たちは、保健システムにおけるデジタル技術のガバナンスの経験的・規範的側面や、保健システムや人々の健康改善を支援するための地域・国・地方レベルのデジタルヘルス戦略の策定に焦点を当てた研究を歓迎する。また、このように意欲的にデジタル変革が進みつつある中で、急速に変化する情報技術セクターの利害を適切に管理するために必要な制度的枠組みや規制インフラについて、そして、社会的説明責任と信頼を担保するための参加型ガバナンスの既存メカニズムの対応力について探求する研究を奨励する。

#### **サブテーマ 4：公正な保健システムのための知識**

保健政策や保健システムのための知識の創出や利用は、研究者や実務家の根底にある価値観を反映した認識論的、倫理的、方法論的な選択に影響される。サブテーマ「公正な保健システムのための知識」は、これらの選択についての議論を広げ、公正で持続可能な保健システムに関する、より良い知見の創出と利用のアプローチについての議論や学びの共有を促進することを目指している。

**研究・学習・教育における認識論的不公正への挑戦と変革：**保健政策や保健システムのための知識の創出や共創は、それにかかわる研究者や実務者のもつ知識・エビデンス・言語のヒエラル

キーによって構造化されて行われるため、結果として多くのグループを排除、疎外してしまっている。研究や教育の実践におけるこうした不公正な状況を明らかにし、そして不公正の解消に取り組み、推進する研究を、歓迎する。また、知見の創出における社会的アイデンティティの重要性とインターセクショナリティの役割を探求し、先住民やその他の知識システムがもつ変革の可能性を探求する研究を支持する。倫理的枠組み、反人種差別主義かつ権力の影響に着目した方法論についての研究、そしてデータの所有権と文化的ガバナンスのように、固定化している権力関係を逆転させるための知識普及や論文による発信についての探求に関する研究も歓迎する。学習と教育に関しては、多様性を促進するカリキュラムのデザインと提供方法を検討する研究、歴史的に教育現場で抑圧・排除されてきた人々の経験や視点を明らかにするための、反証的かつ反植民地的アプローチの役割について考察する研究も歓迎する。さらに、常に改善を目指す「学び続ける保健システム」を支援し、それを強化するために必要な Health Policy and System Research/HPSR (保健政策と保健システム研究) の能力に関する経験や考察、そして、公正な保健システムのための知見の創出と利用について積極的に取り組む継続専門職教育を含む、保健政策と保健システムの教育戦略に関する研究も求めている。

**価値観の表面化：** 価値観は、保健政策や保健システムが設計される際の規範的基盤となるものであり、知識の創出・共有・利用のための既存のアプローチを補強する形で、暗黙のうちに意思決定プロセスへと導くものである。保健システムの研究、学習・教育の実践、そして政策の選択に影響を与える価値観と社会的アイデンティティを探求・特定し、倫理的な意味合いと、社会的正義と持続可能性という、保健システムのより広範な目標との整合性を批判的に分析する研究を奨励する。参加型の優先順位付け、非覇権的な視点を広める戦略、リーダーシップにおける代表性を確保するための戦略的な道筋など、新たな価値観に転換し定着させるために必要なメカニズムや多面的な条件を探求する研究も歓迎する。

**普及と解釈：** 複雑な科学的・社会文化的知識を効果的に解釈・伝達・統合することは、保健システム強化の取り組みにおいて、多様なステークホルダーの参加を得、エンパワメントするために欠かせない要素である。透明性のある明確なコミュニケーションは、課題や多様なエビデンスに対する共通理解に基づいて、根拠のある意思決定と行動を可能とし、信頼を育む。

私たちは知識の解釈・活用、特に体系的な信頼構築を効果的に促進するアプローチやメカニズムについての最先端の研究を歓迎する。また、公平で公正な保健システムを促進するための知識の解釈と普及のベストプラクティスを検討する研究に加え、オープンアクセスの出版、データ共有の役割や新たなモデルを探求する研究が奨励される。